

2026年4月24日

各位

会社名 株式会社データホライゾン
 代表者名 代表取締役社長兼 CEO
 瀬川 翔
 (コード番号 3628 東証グロース)
 問合せ先 執行役員管理本部長
 富永 美保
 (TEL 082-279-5525)

連結業績予想の修正および特別損失の計上に関するお知らせ

当社グループは、2025年9月30日に公表しました2026年3月期(2025年4月1日～2026年3月31日)の連結業績予想を下記のとおり修正することといたしました。また、2026年3月期の連結決算において、下記のとおり特別損失(投資有価証券評価損)を計上する見込みとなりましたので、併せてお知らせいたします。

記

1. 連結業績について

(1) 2026年3月期 通期連結業績 (2025年4月1日～2026年3月31日)

	連結売上高	連結 営業利益	連結 経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり連 結当期純利益
前回発表予想 (A)	百万円 6,000	百万円 400	百万円 420	百万円 629	円 銭 49.56
今回修正予想 (B)	5,141	22	10	267	21.12
増減額 (B-A)	△859	△378	△410	△362	
増減率 (%)	△14.3	△94.5	△97.6	△57.6	
(ご参考) 前年同期間 連結実績 (2024年4 月～2025年3月) ※	4,857	△883	△863	△3,271	△258.08

※ 前期は決算期変更により2024年7月1日から2025年3月31日までの9カ月決算であったため、前年同期間(2024年4月1日～2025年3月31日)の連結実績を記載しております。

(2) 修正の理由

当連結会計年度における連結売上高の通期予想は、前年同期間実績を5.8%上回るものの、次の理由から前回予想を下回る見込みです。

データヘルス関連サービスにおいては、主要顧客である市町村国保について、前年同期間実績から伸長するも受注金額と受注した案件の通知や指導数の実施数量が期ずれを含め予想を下回り、売上高は前回予想から5億円程度の未達となる見込みです。

データ利活用サービスにおいては、当社ソリューションへの引き合いは依然として強く前年

同期間実績から伸長するも、想定していた大型受注の見送りや期ずれ、新規先の案件化の遅れが影響し、売上高は前回予想を3億60百万円程度下回る見込みです。

なお、データヘルス関連サービスおよびデータ利活用サービスともに、今後の案件パイプラインは着実に積み上がっており、中長期的な成長見通しに変更はございません。

損益面につきましては、業務効率化や人員配置の適正化といったコスト削減策が大きく進捗し、損益反転（黒字化）を達成し EBITDA は4億25百万円となる見込みですが、売上高が前回予想を下回った影響で、営業利益、経常利益いずれも前回予想を下回る見込みです。また、親会社株主に帰属する当期純利益は以下に記載の特別損失も加わり前回予想を下回る見込みです。

2. 特別損失の計上について

当社グループが保有する市場価格のない投資有価証券について、取得価額に比べ実質価額が著しく下落したため、投資有価証券評価損59百万円を特別損失として計上する見込みとなりました。

※上記の業績予想は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により異なる可能性があります。

以 上